

# 週刊NY生活

www.nyseikatsu.com

NY生活プレス社 NO. 530 (週刊) 2015年3月28日土曜日

NEW YORK SEIKATSU PRESS, INC. (212) 213-6069  
71WEST 47TH STREET, SUITE307, NEW YORK, NY10036

2015年(平成27年)3月28日(土)

週刊NY生活 SHUKAN NEW YORK SEIKATSU

アップバー・イーストサイドの画廊を中心にアジアの美術品を紹介する「アジアウィーク」は21日に終了したが、大西ギャラリー(西26丁目521番地)が日本の現代陶芸などを紹介した「ヘリテージ」展を開催した。エルク画廊で13日から16日、茶会が開催された。石州流野村派第13代家元で一級建築士でもある堀一



## 日米合作「リノから来た男」27日封切り



「人種の多様性を表

### デイブ・ボイル監督に聞く

日米合作のミステリー映画「リノから来た男」(From Reno)が27日(金)から4月3日(金)まで、タイムズスクエアのリーガルエウオーク・スタジアム13&RPX(西42丁目247番地)で上映される。同作品は昨年のロサンゼルス映画祭でグランプリを受賞した注目作。北米初公開となる27日を前に、監督のデイブ・ボイルさんに話を聞いた。(加藤麻美記者)

▽独特の美意識を感じさせる映像です。撮影監督のリチャード・ウォンとは意見が合うんです。お互いクラシック映画が好きで、CGが嫌い(笑)。手持ちカメラを使わずに、ひと昔前の技法にこだわって撮影しました。

▽多様な人種が交差する設定にしたのは? アメリカは移民の国なのに、この国で作られている映画からは(僕は)それをあまり感じない、反映されていないと思います。だから、「ダイバーシティ」を感じさせる映画を作りたいと思います。

▽派手な事件が起こるわけではないのに、謎が謎を呼んで、最後までグイグイ惹きつけられます。テーマが「アイデンティティ」というのも今目的です。「アイデンティティ」というのはどのミステリーにも共通するテーマですよ。

▽ニューヨークの観客にメッセージを  
今まで見たことがないようなミステリーです。ツイッターやフェイスブックで情報を更新していますので、感想を寄せていただけるとうれしいです。

■米国の大学で日本語を専攻したボイル監督は日本語が堪能。日本をテーマにした作品で映画祭の観客賞も受賞している。同映画の公式ウェブサイトをwww.manfromrenovie.com

### 大西ギャラリーに常設

### 家元設計の立札卓 海外デビュー

孝さんが日本から招かれ、訪問者に自ら設計した立札卓でお点前を披露した。堀さんは土地柄や空間に合った形の柔軟な茶会を普及させ、新たな茶室の設計を数多く手掛けている。今回は堀さん設計の立札卓の海外デビューとなった。板の組み合わせからなるシンプルでデザインで、使わないときは畳んで部屋の片隅に置くことも可能。画廊代表の大西ななさんは「この立札卓は今後、大西ギャラリーに常設して、注文を受けるとともに定期的に茶会をしたい。ぜひニューヨークに気軽に茶会に親しんでもらいたい」と話している。問い合わせは同画廊の電話212・695・8035またはEメールinfo@onishigallery.comに。

▽主演の北村一輝さん、藤谷文子さん、ベベ・セルノさんの起用理由は何? 北村さんについては、三池崇史監督の作品や「ゴジラ・ファイナル・ウォーズ」を見て興味を持ちました。多忙な人ですが、スカイプインタビューをしたらとても気が合って、気持ちよく引き受けてくれました。北村さん演じるスズキ・アキラ役には、「観客の頭に残るような俳優」が必要。北村さんはチャームアップですごくカリスマの俳優なので、ピッタリだったと思います。藤谷さん

MITSUBISHI ELECTRIC SOLAR INNOVATIONS

補助金が適用される今が、導入のチャンスです!

## 太陽光発電システムで電気代を大幅削減!!

企業様採用事例  
米国企業だけでなく、日系企業にも

お住どこ設置企業